

賢島からの発信

賢島物語 第79号

伊勢志摩元気プロジェクト 賢島大学

2011. 10. 28

志摩市阿児町神明賢島

代々木高等学校内

電話 0599-43-6177

後援：志 摩 市

助成：岡田 文化 財団

【10月の講座のまとめ】志摩の文化を語る…文学と音楽…

①「鳥羽志摩に見る文学」

講師：尾崎亥之生(前・公立中学校長先生)

鳥羽志摩の文学として、まず日本最古の和歌である万葉集の句

嗚呼見(あみ)の浦にお船乗すらむ娘子等(むすめら)が

珠裳(たまも)の裾に潮満つらむか

を先生は紹介してくださいました。

嗚呼見(あみ)の浦が訛って英虞の浦になったようです。

持統天皇や柿本人麻呂が関与したと昔習った記憶がありました。尾崎先生が子どものころは初代から124代の昭和天皇まで暗唱させられたようです。すらすらと歴代天皇の名前が出てくるのには驚かされました。

鳥羽市の作品で主なところ、有名な三島の「潮騒」、石坂洋二郎の「若い人」、藤井重夫の「終わりなき鎮魂歌」等々。鳥羽の風景とあわせながら、説明は解りやすかった。

志摩では的矢の文学、壺井栄、嶋田青峰、的輔、山崎豊子の「華麗なる一族」、浜口長生の志摩作品、高浜虚子の「横山」、「多徳島」。等々。説明の中で、面白いのは内田康夫の作品紹介。内田の小説「不等辺三角形」には尾崎亥之生が日本一のダンス職人として登場する。それは先生の所属する文学の組織で、名前使用を認めての登録会員で、実名で小説の中に登場という裏話をきき、皆で大笑いをした。

(他に志摩で多くの作品が作られているのには驚いた。

② 「ニューミュージック発祥の地は合歓の郷」

講師：門原 頌（前・ヤマハ）

1969年7月25日に、合歓の郷ポピュラーフェスティバル69には、伊東ゆかり、弘田三枝子、奥村チヨ、トワ・エ・モア、中尾ミエ……。作詞家では有名な安井かずえ、なかにし礼、山下路夫、岩崎時子……。作曲家では宮川泰、中村八大、渡辺貞夫、鈴木邦彦、三木たかし、かまやつひろし……。そうそうたるメンバー。

合歓で行われたポピュラーソングコンテスト(1969. 11. 23)では黛ジュン、オフ・コース、……。グランプリ曲「からだの中に風が吹く」は水原弘が歌っている。

それまではプロが作った曲、詞を、レッスンを受けた歌手が歌うのが当たり前の手法だったのだが、当時の合歓の社長・川上氏が「自分の作った音楽がいい」「伴奏が大きくて詞画聞こえない」等から、当時の、こだわりのある社長の発案で自作自演のソングが登場。今では当然あるのだが、画期的なことだった。

頂いた資料を見ていると日本のミュージシャンは殆どのものが合歓へきて歌ったと言っても過言ではない。(拓郎、陽水、チューリップ、長淵、チャゲアス等々)

※ 以上のまとめは中嶋聡さんのブログを参考にしました。(一度見てください。)

市民真珠科学談話会が23日にありました

真珠祭りは毎年10月22日に開催される。それは22という数字の左をひっくり返すと2となり、アコヤ真珠の貝の形に見えるからである。

真珠科学談話会は23日に9時から開催されました。発表の概略は以下の通り。

- ① 真珠養殖業の現況と展望(大月京一:KK大月真珠)
 - ② 種苗業者から見る真珠業界について(中村智治:KK WDB環境バイオ研究所)
 - ③ 真珠形成初期に見られる環境を培養下で再現
(主としてアコヤガイ外套膜の移植片培養による上皮再構成とその分泌物について)
町井昭:NPO法人日本科学士協会)
 - ④ 英虞湾の赤潮プランクトン ヘテロカプサ(郷 譲治:ミキモト真珠研究所)
 - ⑤ 環境制御による挿核貝養生方法の開発(渥美貴史:三重県水産研究所)
- 50数名の参加があり、12時には終了しました。中日新聞で取り上げられました。

【11月の講座案内】 ～～志摩を元気にする農業～～

11、12月の講座は志摩の農業と漁業・水産業についてです。楽しみにしてください。

期日:11月17日(木) 19:00～ 場所:代々木高校ホール

演目:①川口栄紀(南張メロン) ②森川まさる(国府、きんこ)③山本和宏(元気農業)

会費:500円(半期会費1500円がお得) 問合:代々木高校内 西尾 43-6177